

## 川端正和氏文書(4)概要

- 1: 文書群番号 104022
- 2: 文書群名 川端正和氏文書(4)
- 3: 出所 川端正和家
- 4: 家業・役職等 酒造業、水堂村戸長・水堂区長、立花村村会議員、水堂小路町内会長、橘土地区画整理組合副長等
- 5: 地名 摂津国川辺郡水堂村／兵庫県川辺郡水堂村／川辺郡立花村水堂／尼崎市水堂／尼崎市水堂町ほか
- 6: 行政区分 ①池田重利領／尼崎藩領／旗本青山氏(幸通系)知行所／兵庫県第10区／三反田組戸長役場／立花村／尼崎市、②幕府領・大坂城代領／武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領／幕府領／尼崎藩領／兵庫県第10区／三反田組戸長役場／立花村／尼崎市
- 7: 歴史  
水堂村は、市域西部に位置する。史料上の初見は明応8年(1499)「大内義興感状」(萩藩閩閩録2)。小路(しょうじ)村(少路村とも表記)は中世以来の枝村である。  
村高は、慶長10年(1605)に1,096石余、天保5年(1834)に1,134石余。村の大部765石余が池田重利領、尼崎藩領、旗本青山氏知行所となる。川端家はこれに属していた。村の小部369石余は、幕府領、大坂城代領、武蔵国忍藩阿部氏領、幕府領、尼崎藩領というめまぐるしい領主交替を経験した。  
水利は水堂井組に属した。氏神は須佐男神社(近世には大梵天王宮)、寺院は浄土宗常春寺・浄土真宗本願寺派金衆寺・同宗同派光輪寺。  
川端家は代々、水堂村のうち小路村に居住し、近世以来酒造業を営んでいた。正和家の襲名は「又兵衛」。18世紀後期から明治40年ごろにかけて西宮郷に酒の出造りのため出店を設け、川端又五郎を分家した(西宮郷での酒造その他事業については藤田卯三郎『酒造家銘鑑』2007、に詳しい)。出店(又五郎家)のあった近世後期～近代が最も酒造業が盛んであったようで、少なくとも明治期までは東京向けを含め酒造業を続けていたようである。近代に入っては、水堂村戸長、水堂区長、立花村村会議員、水堂小路町内会長、橘土地区画整理組合副長等を務めていた。
- 8: 伝来 平成16年、史料館が川端章氏より借用。平成24年1月に整理・目録作成を完了し、同年3月に寄託を受けた。
- 9: 史料入手先 川端章氏
- 10: 点数 3652点(目録件数2565件)
- 11: 年代 宝暦13年(1763)～昭和26年(1951)
- 12: 構造と内容 大半は明治～大正初年にかけての、川端正和家の私的文書からなる。わずかに酒造・金融関連の近世史料もある。  
文書群の約1/4ほどを占めるのが書簡で、次いで家・金融・土地関係、宗教関係(寺社への寄付や催しの案内等)の史料が占める。  
川端家の親族関係・交友関係がよくわかる史料群である。  
川端正和氏文書(1)～(3)と本来一体である。
- 13: 関連史料 川端正和氏文書(1)～(3)
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河野未央